

展示室1 19世紀末イギリス美術



バーン=ジョーンズ《フローラ》

19世紀後半のヴィクトリア朝のイギリス美術には、全盛期を迎えた近代イギリスの社会状況が色濃く反映されています。世界的な繁栄の陰で、イギリス国内では都市部を中心に公害や貧困などの社会問題が生じ、人々の間にある種の閉塞感が蔓延していました。

そうした中で当時の美術家たちは、ギリシャ・ローマなどの古典芸術や文学作品、東洋世界などに憧憬と関心を高め、創作の源泉としました。彼らは現実と夢を紡ぐ豊かな想像力を発揮する一方で、装飾性や審美性に特化した表現を追求しています。それは物質社会への内なる警鐘であるのと同時に、20世紀に花開く前衛的な造形表現の胎動でもありました。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
●ヴィクトリア朝の美術			
フォード・マドックス・ブラウン	牢獄のジャコボ・フォスカリ	1869	チョーク・紙
オーブリー・ピアズリー	おまえの口に口づけしたよ、ヨカナーン (オスカー・ワイルド『サロメ』挿絵『ステューディオ』創刊号 ブルー版)	1893	ラインブロック・紙
ジェームズ・アボット・マクニール・ホイッスラー	ラルエット坊や	1859	エッチング・紙
チャールズ・ワーグマン	西洋紳士スケッチの図	1870代	油彩・スケッチボード
ウォルター・シッカート	カフェ	1914頃	油彩・キャンパス
サー・フランク・ブランギン	エリザベス女王の乗船を待つゴールデン・ハインド号	1903-5頃	油彩・キャンパス 畑中俊彦氏寄贈
サー・フランク・ブランギン	花園	1899頃	油彩・板
アルバート・ジョゼフ・ムーア	黄色いマーガレット	1881	油彩・キャンパス
サー・エドワード・コリー・バーン=ジョーンズ	『フラワー・ブック』より「霧の中の愛」「蛇の舌」「天の梯子」 「目覚めて、愛しい人よ!」「春の鍵」「ヤコブの梯子」「白い庭」 「魔法使いの木」「ベツレヘムの星」「甘美な草地」	1905刊	リトグラフ・紙/ポートフォリオ
サー・エドワード・コリー・バーン=ジョーンズ	キリストの昇天	1875	チョーク、墨・紙
サー・エドワード・コリー・バーン=ジョーンズ	アヴァロンにおけるアーサー王の眠り	1894	グワッシュ・紙
サー・エドワード・コリー・バーン=ジョーンズ	フローラ	1868-84	油彩・キャンパス
ジョン・ウィリアム・ウォーターハウス	フローラ	1914頃	油彩・キャンパス
●イギリス近代美術			
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	サン・ゴタル峠の下り道	1848	水彩・紙
ジョン・コンスタブル	デダムの谷	1802	油彩・紙、キャンパス
サー・ジョシュア・レイノルズ	エグリントン伯爵夫人、ジェーンの肖像	1777	油彩・キャンパス
トマス・ゲインズボロ	オース夫人の肖像	1767	油彩・キャンパス

展示室2 原撫松と牧野義雄



原撫松《牧野義雄》

原撫松（1866-1912）と牧野義雄（1869-1956）とは、明治後期にロンドンで知り合った親友同士です。ふたりは当時主流だったフランスではなくイギリスに留学したことと、他の日本の画家たちとの交流がなかったことから、日本の近代美術史の中で語られる機会はほとんどありません。ですが、原はロンドンの美術館にある名画を模写することで西洋画の神髄を追求した稀有な画家です。そして牧野は霧の効果を出すための独特の水彩技法を生み出し、当時の社交界の寵児とさえなりました。

今回は、彼らの作品を特集すると同時に、明治から大正期にイギリスで制作した日本人画家たちの作品も紹介します。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
原 撫松	自画像		水彩・紙
原 撫松	鯉を見る少女		水彩・紙 原優子氏寄贈
原 撫松	みかん	1892 (明治 25)	水彩・紙
原 撫松	包丁		水彩・紙 原優子氏寄贈
原 撫松	日本髪若い女性像		水彩・紙
原 撫松	日本髪若い女性像		油彩・キャンパス

作者名	作品名	制作年	技法・材質
原 撫松	婦人像	1906-7 (明治 39-40)	水彩・紙
原 撫松	アルバートメモリアル	1906-7 (明治 39-40)	水彩・紙
原 撫松	日本髪的女性肖像	1910 (明治 43) 頃	油彩・キャンバス
原 撫松	横山孫一郎像	1899 (明治 32)	油彩・キャンバス
原 撫松	横山勇子像	1899 (明治 32)	油彩・キャンバス
原 撫松	婦人像	1906-7 (明治 39-40) 頃	油彩・キャンバス
原 撫松	霧の広場	1906 (明治 39)	油彩・キャンバス
原 撫松	奈良の夕	1911 (明治 44)	油彩・キャンバス
原 撫松	牧野義雄	1904-7 (明治 37-40)	鉛筆・紙
原 撫松	牧野義雄像	1904-7 (明治 37-40)	水彩・紙
牧野義雄	セント・ジョン・ザ・ディヴァイン大聖堂	1924 (大正 13)	水彩・紙
牧野義雄	ハドソン川上流	1926 (大正 15)	水彩・紙
牧野義雄	夜のリージェントパーク	1928 (昭和 3)	油彩・キャンバス
牧野義雄	日本大使館から見たロンドン爆撃	1940 (昭和 15)	油彩・キャンバス
牧野義雄	ハイド・パークのアキレス像		油彩・キャンバス
牧野義雄 (挿絵)	『神々の愛でし人』	1903 刊	折本
牧野義雄 (挿絵)	『ザ・カラー・オブ・ロンドン』 (W. J. ロフティ著、チャット&ウィングス社発行)	1907 刊	本
牧野義雄 (著・挿絵)	『日本人画工 倫敦日記』	1910 刊	本
石橋和訓	男性裸像	1907 (明治 40)	油彩・キャンバス
武内鶴之助	英国風景		油彩・キャンバス
武内鶴之助	虹 (英国牧場風景)		油彩・キャンバスボード
南 薫造	少女		水彩・紙
南 薫造	リー川	1909 (明治 42)	水彩・紙
高木背水	英国帝室植物園		油彩・キャンバス

展示室3 郷土ゆかりの美術



三木宗策《威容抱慈 (坂上田村麻呂像)》

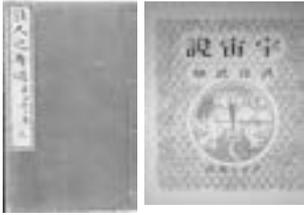
かつて郡山とその周辺に広がっていた安積原野。明治期、その荒涼地帯に猪苗代湖から通された水路、安積疏水によって土地が拓かれ、さまざまな分野の発展への礎が築かれました。文化活動も盛んになり、美術の領域においても多くの作家を輩出しています。

当館では、「郷土ゆかりの美術」をコレクションのひとつの柱として作品を収集してきました。県内外で活躍してきた作家たち、そして郷土の美術の発展に尽力した作家たちの多彩な作品の数々をご覧ください。

表現のしかたはそれぞれですが、彼らの過ごしたふるさとの潤い豊かな風土が、創造の根源ともなっているのかもしれません。

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
安藤重春	笹	1932-37 (昭和 7-12) 頃	岩絵具・絹	安藤重春氏寄贈
安藤重春	あんず	1932-37 (昭和 7-12) 頃	岩絵具・絹	安藤重春氏寄贈
常盤大空	殷賦考	1962 (昭和 37)	岩絵具・キャンバス	
青津清喜	枯れた花の静物	1951 (昭和 26)	油彩・キャンバス	
菊地養之助	家族	1957 (昭和 32)	岩絵具・紙	菊地一郎氏寄贈
黒澤吉蔵	晩秋の山河	1975 (昭和 50)	岩絵具・紙	
鎌田正蔵	魔の山	1938 (昭和 13) 頃	油彩・キャンバス	鎌田正蔵氏寄贈
土橋 醇	小さな村	1955 (昭和 30)	油彩・キャンバス	
佐藤昭一	シリーズ透過 02	2002 (平成 14)	アクリル・キャンバス	
斎藤 清	珊瑚	1955 (昭和 30)	木版・紙	
斎藤 清	早春	1990 (平成 2)	木版・紙	(株) ホテルはまつ寄贈
岩谷 徹	落日一森	1985 (昭和 60)	メゾチント・紙	
安部直人	ほおずきIV	2000 (平成 12)	エッチング、メゾチント・紙	
三木宗策	威容抱慈 (坂上田村麻呂像)	1924 (大正 13)	木	
佐藤静司	獺	1936 (昭和 11)	木	
三坂耿一郎	まとう	1967 (昭和 42)	ブロンズ	

展示室4 本の美術・日本篇



左『佳人之奇遇』

右『書窓版画帖十連聚其六 宇宙説』

身近で親しみやすいがゆえに、見落とされている美術作品としての本の重要性—当館では、あらためてその重要性を考え、作品収集の柱のひとつとして本（版）の美術をうたっています。

今回はコレクションから、日本近代の本を中心に展示します。江戸時代までに広く普及した和紙を袋綴じにした製本方法・和綴じに代わって、西洋からもたらされた洋綴じによる洋装本がその後、一般的になりました。明治時代はその過渡期にあたり、内容は西洋を舞台にしていながら和装本であるベストセラー小説『佳人の奇遇』や、当時最新の印刷技術だった石版による図版を多用した和綴じの大蔵省印刷局の出版物など、ユニークな形式の本を手始めに、美しい挿絵や装丁による豊かな本の世界をお楽しみください。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
大蔵省印刷局	『国華余芳 正倉院御物』	1880 (明治 13)	石版／本
大蔵省印刷局	『国華余芳 伊勢内外神宝之部』	1880 (明治 13)	石版／本
大蔵省印刷局	『国華余芳 古書之部』	1880 (明治 13)	写真石版／本
大蔵省印刷局	『波間の錦』	1883 (明治 16)	石版／本
大蔵省印刷局	『朝陽閣鑑賞錦繡帖』 卷上・下	1883 (明治 16)	木版／本
亀井至一	『観古図説』 I、III、IV	1876、77(明治 9、10)	石版、手彩色／本
下国巖之助	『観古図説』 V	1877 (明治 10)	石版、手彩色／本
江島鴻山 (銅鑄)	『開明新選道中袖鏡』	1875 (明治 8)	銅版／本
竹内猛虎 (挿画)	『大和名所巡覧記』	1891 (明治 24)	銅版／本
	『輿地誌略』 (内田正雄編著) から 6 点	1871-80 (明治 4-13)	木版、銅版、石版／本
	『佳人之奇遇』 (東海散士著) から 7 点	1886-97 (明治 19-30)	石版／本
水野年方 (画)	『日の出島 富士の巻』 口絵	1897 (明治 30)	木版
鈴木華邨 (画)	『日の出島 蓬莱の巻』 口絵	1897 (明治 30)	木版
鎌木清方 (装丁)	『日の出島 朝日の巻』 (村井弦齋著) 表紙	1902 (明治 35)	
	『九十七時二十分間 月世界旅行 卷之弍』	1880 (明治 13)	銅版／本
	(米国ジュールスベルン氏著、井上勤訳、黒瀬勉二発行)		
	『五大洲中 海底旅行 上編』	1884 (明治 17)	木口木版／本
	(ジュールス、ベルン原著、服部誠一校閲、大平三次重訳、四通社発行)		
	『世界進歩 第二十二世紀』	1886 (明治 19)	石版／本
	(仏国アー、ロビダール氏著、服部誠一訳述、岡島宝玉堂発行)		
亀井至一 (挿画)	『経国美談 後編』 (矢野文雄纂訳兼出版、報知新聞社発行)	1884 (明治 17)	石版／本
亀井至一 (挿画)	『経国美談』 第 7 版 (矢野文雄纂訳兼版行、報知新聞社発行)	1888 (明治 21)	石版／本
亀井至一 (挿画)	『経国美談 完』 第 13 版 (矢野文雄纂訳、長島文昌堂発行)	1894 (明治 27)	石版／本
亀井至一 (挿画)	『訂正 経国美談』 第 5 版		
	(矢野龍溪著、文盛堂書店発行)	1910 (明治 43)	石版、銅版／本
青木繁 (口絵)	『春鳥集』 (蒲原有明著、本郷書院)	1905 (明治 38)	木口木版／本
田中恭吉、恩地孝四郎	『月に吠える』 (萩原朔太郎著、感情詩社、白日出版部)	1917 (大正 6)	木版他／本
川西 英	『カルメン』 (版画荘)	1934 (昭和 9)	木版／本
川西 英	『曲馬写生帖』 (版画荘)	1934 (昭和 9)	木版／本
川西 英	『サーカス』 (版画荘)	1934 (昭和 9)	木版／本
織田一磨	『書窓版画帖十連聚其一 都会生活』	1941 (昭和 16)	石版／本
川西 英	『書窓版画帖十連聚其二 港都情景』	1941 (昭和 16)	木版／本
川上澄生	『書窓版画帖十連聚其三 文明開化往来』	1941 (昭和 16)	木版／本
前川千帆	『書窓版画帖十連聚其四 新野外小品』	1942 (昭和 17)	木版／本
関野準一郎	『書窓版画帖十連聚其五 東京の空』	1942 (昭和 17)	エッチング／本
武井武雄	『書窓版画帖十連聚其六 宇宙説』	1942 (昭和 17)	エッチング、ドライポイント／本
逸見 享	『書窓版画帖十連聚其七 水韻譜』	1942 (昭和 17)	木版／本
恩地孝四郎	『書窓版画帖十連聚其八 蟲・魚・介』	1943 (昭和 18)	木版／本
平塚運一	『書窓版画帖十連聚其九 伊豆一周画詞』	1941 (昭和 16)	木版／本
吉田穂高	『七つの幻想庭園』	1979 (昭和 54)	木版、亜鉛凸版・紙
山下清澄	『幻想庭園』 (アンドレ・P・マンディアルグ著)	1983 (昭和 58)	エッチング、アクアチント／ポートフォリオ

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
斎藤寿一	魚	1958 (昭和 33)	ディープエッチング、エンブレイヴィング・紙	斎藤聆子氏寄贈
斎藤寿一	街	1959 (昭和 34)	ディープエッチング、エンブレイヴィング・紙	斎藤聆子氏寄贈
斎藤寿一	海	1959 (昭和 34)	ディープエッチング、エンブレイヴィング・紙	斎藤聆子氏寄贈

展示室 4 美と用の調和



佐藤潤四郎《鳥文大皿》

「工芸」という用語が日本で使われるようになったのは、明治時代からです。この時期、西洋からもたらされた「美術」という概念とともに「工芸」というジャンルが形成されました。

工芸は、実用性と美しさを兼ね備えています。実用的であればあるほど、生活の役には立ちますが、美的価値がなければ工芸にはなりません。

工芸の分野は、陶芸、ガラス工芸、金工など多岐にわたります。郡山市出身の佐藤潤四郎は、クリスタルガラスを基調としながらも、ぬくもりを感じさせる作品を生み出しました。

また、19世紀後半にイギリスで活躍したクリストファー・ドレッサーは、ガラス工芸はもとより、陶磁器、金属製品など多様なデザインを手がけ、モダン・デザインの道を切り開きました。

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
吉田丈夫	クリスタル瓶《瓢》		ガラス/宙吹	田淵十一氏寄贈
佐藤潤四郎	花器（雲母入り）		ガラス/宙吹・雲母封入	
佐藤潤四郎	植物文一輪挿し		ガラス/宙吹・グラヴェール	
佐藤潤四郎	花器・一寸考えて		ガラス/宙吹	
佐藤潤四郎	花器（グリーン）		ガラス/宙吹	
佐藤潤四郎	花器（グリーン）		ガラス/宙吹	
佐藤潤四郎	雲母入り花器		ガラス/宙吹・雲母封入	
佐藤潤四郎	大杯・ワインを造る		ガラス/宙吹・グラヴェール、プランツ	佐藤久枝氏寄贈
佐藤潤四郎	竹に雀文ワイングラス		ガラス/宙吹・グラヴェール、プランツ	佐藤久枝氏寄贈
佐藤潤四郎	水指（魚）	1986 (昭和 61)	ガラス/型吹	
佐藤潤四郎	鳥文大皿		陶器	田淵十一氏寄贈
田村耕一	野草図楕円鉢	1963 (昭和 58) 頃	陶器	麻山富義氏寄贈
仁阿弥道八	刷毛目鉢	19世紀 (江戸)	陶器	渡辺宗侑氏寄贈
浜田庄司	鉛釉花打茶碗		陶器	
浜田庄司	白釉鉄絵茶碗		ストーンウェア	
浜田庄司	黒釉鑄流描角皿		陶器	麻山富義氏寄贈
三輪休雪 (11代)	白萩茶碗	大正 - 昭和	陶器	渡辺宗侑氏寄贈
クリストファー・ドレッサー	銀製ティー・セット	1885	銀、象牙、金メッキ	
クリストファー・ドレッサー	うに形容器	1879-82 頃	陶器	
クリストファー・ドレッサー	青釉水差	1879-82 頃	陶器	
クリストファー・ドレッサー	金彩筒型三足花器		磁器	
クリストファー・ドレッサー	瓶（淡緑色クルーサ・ガラス）		ガラス	
バーナード・リーチ	鉄絵碗		陶器	
バーナード・リーチ	白磁魚絵皿	1961	磁器	

ロビー展示 彫刻・他

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
笠置季男	躍進	1958 (昭和 33)	セメント	
アントニー・ゴームリー	量子雲 XXIII	2000	ステンレス・スチール棒	
アントニー・ゴームリー	領域 XIII	2000	ステンレス・スチール棒	
アリストイード・マイヨール	もの思い	1930	ブロンズ	大高善二郎氏寄贈
北村四海	井冰鹿の娘	1917 (大正 6)	大理石	
植木 茂	体		木	
堀内正和	顔	1955 (昭和 30)	鉄、セメント	
バリー・フラナガン	野兎と鐘	1988	ブロンズ	